

# I am Jazz! (ジャズ・スーパー列伝)

ジャズの発展に貢献し、その歴史に名を刻んだ名プレイヤーたち。その人生は、楽器が異なる如く千差万別。このコーナーでは、そんな個性的なジャズマンたちの功績を称え、生き様を紹介することで、より多くの人々にジャズの素晴らしさを伝えていきたい。

Vol. 72

## Valaida Snow 【ヴァライダ・スノー】

～“トランペットの女王”と称された女性ジャズ・シンガー&トランペッター～



Photo : Valaida Snow "Hot Snow" (Rosetta Records)

### Profile

1904年6月2日、米国テネシー州チャタヌーガ生まれ。音楽教師の母親とパフォーマンスグループのリーダーで大臣も務めた父親のもと、ショービジネス一家で育ち、5歳の頃から父親のグループで演奏を始める。15歳になるまでに、両親からトランペット、サクソ、クラリネット、ヴァイオリン、バンジョー、マンドリン、ハーブ、アコーディオン、チェロ、ベース等を学び、歌やダンスもこなした。デキシーランドのレビューでキャリアをスタートさせ、その後ハーレムのキャバレーで働き始める。ミュージカル「イン・パンビル」にもキャストされるようになる。アメリカ国内、ヨーロッパ、中国でコンサートを行い、26年にロンドンとパリをツアーで周り、28年のシカゴ公演ではトランペットとヴォーカルを披露するなど、徐々に注目を集める。29年まで上海、シンガポール、カルカッタ、ジャカルタでジャック・カーターと共にツアーを行う。30年代に入ると、ヒット曲「ハイハット、トランペット、リズム」を録音。NYのエセルウォーターズのショーに出演。30年代半にはベリーブラザーズのダンスグループの映画を制作。その後も数多くのショーや映画出演のためにヨーロッパと極東のツアーに参加。41年にデンマークをツアー中、ナチスに逮捕され、デンマークの刑務所ヴェストレフェンセルに拘留される。その後、アール・エドワーズと結婚。逮捕～拘留の影響もあり、50年代以降は以前のような活躍は影を潜めた。女性版サッチモの様な存在感を放ち、W.C. ハンディに付けられた“トランペットの女王”“リトルリス”というニックネームと共に親しまれた。ジャズミュージシャン兼エンターテイナーとして国際的に活躍。1956年5月30日、NY バレス・シアターに出演中のバックステージで脳出血により息を引き取る。享年51歳。

# VS's Great Album

ヴァライダ・スノーは1930年代から40年代にかけて活躍し、素晴らしい名演の数々が残されているが、その多くはコンピレーション・アルバムなどで聴くことができる。

1935〜1947年代までの  
ヴァライダ・スノーの名演を収録

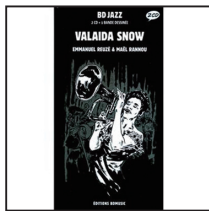


**Vol. 1: 1935-47  
ヴァライダ・スノー**

(Harlequin Records : CDHQ-12)

ヴァライダ・スノー (vo, tp), 他

ヴァライダ・スノーの魅力が  
詰まった2枚組コンピレーション



**Bd ジャズ・ヴァライダ・スノー  
ヴァライダ・スノー**

(Bd Jazz : BDJZ-129)

ヴァライダ・スノー (vo, tp), 他

1930〜1950年代までの  
ヴァライダのレオトトラックを収録



**スウィング・イズ・ザ・シング  
ヴァライダ・スノー**

(RSK : URCD-312)

ヴァライダ・スノー (vo, tp), 他

1. アイ・ウィッシュ・アイ・ワー・ツイズ 2. アイ・  
キャント・ダンス 3. アイ・キャント・ダンス  
(他、全21曲)

Disc-1. 22曲  
Disc-2. 21曲  
(他、全43曲)

1. メイビー・アイム・トゥ・ブレイム 2. プア・  
パタフライ 3. アイ・キャント・ダンス 4. ミー  
(他、全26曲)

ヴァライダ・スノーが  
1935年から1947年までの  
13年間に吹き込んだトラックを収  
録したコンピレーション・アルバム。  
ヴァライダの30代前半から40代半ば  
まで、油が乗り切った時代の歌声とブレ  
イが聴ける。「シング・ユア・シナーズ」  
「ウイソパー・スイート」「アイ・ウオント・  
ア・ロット・オブ・ラヴ」「ラヴェイブル・  
アンド・スイート」「ユー・ア・ノット・ザ・  
カインド」「ムード・ザット・アイム・  
イン」等、全21曲を収録。

ジャケットのイラスト  
も印象的なこのアルバムは、  
エマニュエル・レウジ、マエル・  
ラノウも参加したヴァライダ・スノー  
のコンピレーション・アルバム。Disc-1  
には「シンギング・イン・ザ・レイン」「ユー・  
レット・ミー・ダウン」「ディキシー・リー」  
「ナガサキ」等、22曲を収録。Disc-2  
には「キャラヴァン (1939年ヴァージ  
ョン)」「セント・ルイス・ブルース」  
「キャラヴァン (1964年ヴァージ  
ョン)」「フラストレーション」  
等、21曲を収録。

ヴァライダ・スノーが  
1930年代から1950年代ま  
でに吹き込んだレオトトラックを厳  
選し、新たにリマスターしたコンピレ  
ーション・アルバム。「ハイ・ハット・ト  
ランペット・アンド・リズム」「ミーン・トゥ・  
ミー」「スウィング・イズ・ザ・シング」「ナ  
ガサキ」「アイ・ガット・リズム」「タイガ  
ー・ラグ」等、絶頂期のヴァライダの  
ヴォーカルとトランペットが堪能でき  
る全26曲を収録。マイク・ポイ  
ントンによって書かれブック  
レットも充実。

## 元祖女性エンタテイナー&マルチ・タレント

W.C. ハンディに付けられたニックネームは“トランペットの女王”。“女版サッチモ”とも称され、トランペットだけでなく歌声も素晴らしいヴァライダ・スノー。また、ピアノ、ヴァイオリンも弾きこなし、ダンサーでもあった。幼少期より両親がサクソ、クラリネット、ヴァイオリン、バンジョー、マンドリン、ハーブ、アコーディオン、チェロ、ベース等も教えたそうで、正に元祖女性エンタテイナー&マルチ・タレントと言える存在だった。1920年代半ばから世界中のホテルのショーに出演し、1928年にはインド、上海、東京でもショーを行ったと言われている。

## 女性トランペット&ヴォーカル

男性トランペット&ヴォーカルでは、ルイ・アームストロングやチェット・ベイカーが有名で、日本ではTOKUが活躍している。ヴァライダ・スノーは女性トランペット&ヴォーカルのパイオニア的存在だが、ヴァライダ・スノー以外には、アメリカ西海岸で活動したクロラ・ブライアント。本誌 Jazz Interview にも登場してくれたバルセロナ出身のアンドレア・モティス。日本では2019年に『シングス & プレイズ』をリリースした市原ひかり。その他、関西を中心に活動している小泉奈那等がいる。新たな女性トランペット&ヴォーカルの登場と活躍を期待したい。

# Jazz Standards (ジャズ名曲列伝) vol.45

## ~ If I Were A Bell [イフ・アイ・ワー・ア・ベル] ~

この曲はフランク・レスサーにより作詞・作曲された。1950年にデイモン・ランアン原作のミュージカル「野郎どもと女たち」で使用され、イザベル・ビクリーが歌った。1955年に映画化された際にはジーン・シモンズが歌って広く知られるようになった。ジャズ・シーンでは、マイルス・デイヴィスが1956年に吹き込んだ有名なマラソン・セッション4部作の1つ「リラクシン」に収録され、その後、名スタンダードとして取り上げられるようになった。

★この名曲が聴けるお薦めのアルバム

- マイルス・デイヴィス・クインテット 『リラクシン』
- ブロッサム・ディアリー 『ワンス・アポン・ア・サマータイム』
- 高柳昌行と新世紀音楽研究所 『銀巴里セッション』
- ジミー・スミス・トリオ 『ライヴ・アット・ザ・ヴァレージョ・ゲイト』
- チック・コリア 『ザ・ミュージシャン』